

戦前、宣教師として中国に渡り、  
中国子女のための教育機関「北京崇貞学園」を創設した  
清水安三（桜美林学園創設者）の諸活動と思想形成を、  
北京市檔案館等の未公開資料や、  
卒業生からの聞き取りなどをもとに解明。  
日中教育文化交流史研究に新たな一石を投じた意欲作！

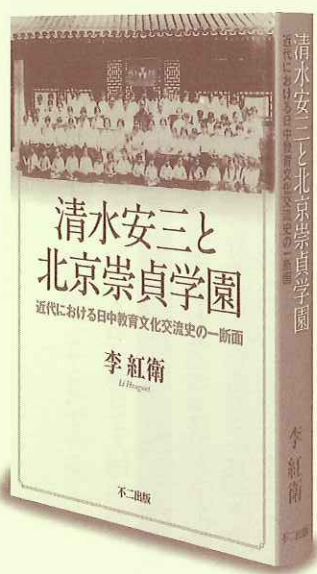
# 清水安三と

# 北京崇貞学園

近代における日中教育文化交流史の一断面

李紅衛 著

- A5判・上製・340ページ
- 定価——本体価格4,800円＋税
- 2009年2月刊行
- ISBN 978-4-8350-6196-2
- 推薦——阿部洋・樽松かほる



不二出版

序章

- 第一節 問題意識の所在
- 第二節 近代における日本の在華教育活動
- 第三節 清水安三と崇貞学園に関する先行研究の検討
- 第四節 本書の構成と課題

第一部 清水安三の生涯と思想―中国に捧げた半生を中心に

- 第一章 清水安三の半生と中国
  - 第一節 儒教的世界からキリスト教世界へ
  - 第二節 西洋への傾倒から中国社会への注目へ
  - 第三節 北京時代の関歴
- 第二章 清水安三の中国観―その形成と展開を中心に
  - 第一節 清水における中国観の形成
  - 第二節 清水における中国観の展開
- 第三章 清水安三の伝道思想
  - 第一節 清水の宗教思想
  - 第二節 清水の中国伝道論
  - 第三節 清水の中国伝道活動
- 第四章 北京崇貞学園長清水(小泉)郁子の中国認識
  - 第一節 幼少時代
  - 第二節 東京女高師時代
  - 第三節 米国大学留学時代
  - 第四節 汎太平洋婦人会議
  - 第五節 中国視察講演旅行
  - 第六節 渡中後

第二部 清水安三の教育実践―北京崇貞学園の経営を中心に

- 第五章 北京崇貞学園の沿革
  - 第一節 災童収容所―崇貞学園の前身
  - 第二節 草創期の崇貞学園(一九二二―一九三五年)―清水美穂学園長時代
- 第六章 北京崇貞学園の発展
  - 第一節 発展期の崇貞学園(一九三五―一九四五年)―清水郁子学園長の学校経営
  - 第二節 学校の制度
  - 第三節 学校の編成
  - 第四節 学校の運営経費
  - 第五節 留学生派遣制度
- 第七章 北京崇貞学園の教育実践―その特徴
  - 第一節 工読主義の教育
  - 第二節 民族を超越した教育実践
  - 第三節 崇貞学園の終焉―北京政府による接收をめぐって
- 第八章 北京愛隣館の設立と運営―第二の崇貞学園
  - 第一節 北京愛隣館の設立経緯
  - 第二節 北京愛隣館の運営組織
  - 第三節 北京愛隣館の運営資金
  - 第四節 北京愛隣館の事業実態
- 補論 羽仁もと子と自由学園北京生活学校
  - 第一節 北京生活学校の設立
  - 第二節 北京生活学校の実態
  - 第三節 北京生活学校の教育
  - 第四節 北京生活学校の接收

終章

- 主要参考文献一覧
- 〈付1〉清水安三略年譜
- 〈付2〉清水安三著作目録
- 〈付3〉崇貞学園略年表(一九二二―四六年)
- 資料編
- 人名索引

清水安三略年譜

西暦	年齢	事項
一八九一年	〇歳	・滋賀県高島郡新儀村に生まれる。
一九〇八年	一七歳	・組合派白玉町教会で牧師白石矢一郎よりキリスト教洗礼を受ける。
一九一〇年	一九歳	・膳所中学校卒業。同志社大学神学部入学。
一九一四年	二三歳	・鑑真和尚の伝記を読んだことなどを契機に、欧米的傾倒より中国文化へ関心が移る。
一九一五年	二四歳	・アメリカ人宣教師ホレス・ベトキン殉教の話に機に、中国伝道を決心。
一九一七年	二六歳	・日本組合基督教会より中国へ派遣され瀋陽に。
一九一八年	二七歳	・横田美穂と大連教会で結婚。
一九一九年	二八歳	・北京へ転居。大日本支那語同学会で中国語を習得。
一九二〇年	二九歳	・日華実業協会の委託により災童収容所を開設し飢饉救済活動へ。
一九二一年	三〇歳	・災童収容所解散後、崇貞学園創設(五月二八日)。
一九二二年	三一歳	・『北京週報』の創刊とともに論説記者となる。
一九二三年	三二歳	・魯迅に初対面。
一九二四年	三三歳	・倉敷紡績の大原孫三郎の北京視察を案内し、米国留学の援助を約束される。
一九二六年	三五歳	・胡適や毛沢東に面会する。
一九二七年	三六歳	・大阪教会で接手礼式を受けて牧師となる。
一九二九年	三八歳	・アメリカへ留学のため美穂とともに北京を離れる。
一九三二年	四一歳	・米国オベリン大学卒業、北京へ戻る。
一九三三年	四二歳	・蔣介石と単独会見。
一九三六年	四五歳	・学園の経営資金捻出のため日本へ一時帰国。
一九三七年	四六歳	・同志社大学予科、英語師範部の講師をつとめる。
一九三八年	四七歳	・同志社大学講師を辞退、近江兄弟社北京駐在員となる。
一九三九年	四八歳	・美穂夫人病没(二月一九日)。
一九四〇年	四九歳	・北京を戦禍から守るため、日中両軍司令官にかけ合う。
一九四六年	五五歳	・総牧師として北京日本人教会設立。
		・北京愛隣館の館長となり、郁子は現地委員長となる。
		・愛隣館落成式(五月二六日)。
		・日本憲兵隊より三〇日間に及ぶ取り調べを受ける。
		・日本へ引き揚げる(三月一五日)。
		・桜美林学園を創立(開園式五月五日)。



米国オベリン大学より名誉博士号を授与されたときの清水安三(1968年、76歳)(桜美林学園提供)

〇卒業  
 〇学部教育学科卒業  
 〇院人文科学研究科博  
 〇院人間文化研究科博

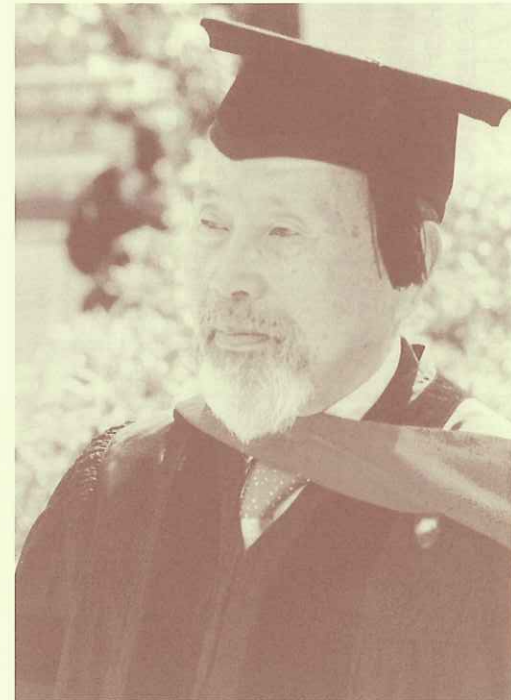
〇校非常勤講師  
 〇達教育研究センター

表6-1 崇貞学園理事会名簿（1942年度）

姓名	性別	年齢	本籍	職業	経歴	職掌	住所
銭 福孫	男	50歳	浙江興興	北京大学日本文学学科主任教授		理事長	北京西四愛聖胡同9号
柯 政和	男	49歳	福建安溪	北京師範学院長 調専長、新民会中央指導部委員	北京女子師範大学及び北京師範大学教授	理事	北京大阮府胡同30号
王 雨生	男	40歳	山東館陶県			理事	北京南池子觀音後巷1号
清水安三	男	50歳	日本滋賀県	本校経営者、メンソレータム中国代理店	同志社大学教授	理事	北京朝陽門外崇貞学校寄宿舎
清水郁子	女	49歳	日本滋賀県	本校教務長	長崎県立高等女学校教諭、兵庫県明石女子師範学校教諭、東京青山学院女子専門部及び神学部教授	理事	北京朝陽門外崇貞学校寄宿舎
王 諷	男	47歳	四川省	北京師範学院院長	武昌師範大学、北京師範大学、北平大学、女子師範大学教授	理事	北京西城石版房22号
					長崎県立小学、京南立小学、北京公立民小学校教員	理事	北京朝陽門内南弓匠營小椿樹胡同11号
						理事	北京朝陽門外吉市口2条38号
					長崎県立神崎高等女学校、福岡県九州高等女学校教諭	理事	北京朝陽門外崇貞学校寄宿舎
						理事	北京南長街4条1号
					成瀬川メソヂイス 日本山口県防府聖公会牧師	理事	北京東堂子胡同22号
					聖務	理事	北京内務部街47号
					女中主任教員、教授	理事	北京私立崇貞女子中学
					長及び那威代表、ピア大学	理事	北京東四北11条河家口20号
					校理事、YMCA 北京社会服務促進会(女会)	理事	北京東城8面槽8号

校黨会組織章程申請立案及校黨会(程)」、1942年、J4-2-1078より作成。

第二部 清水安三の教育実践



米国オベリン大学より名誉博士号を授与されたときの清水安三(1968年、76歳)(桜美林学園提供)

第六章 北京崇貞学園の発展  
第一節 発展期の崇貞学園(一九三五—一九四五年)——清水郁子

- 第二節 学園長の学校経営
- 第三節 学校の編成
- 第四節 学校の運営経費
- 第五節 留学生派遣制度
- 第七章 北京崇貞学園の教育実践——その特徴
- 第一節 工読主義の教育
- 第二節 民族を超越した教育実践
- 第三節 崇貞学園の終焉——北京政府による接收をめぐって
- 第八章 北京愛隣館の設立と運営——第二の崇貞学園
- 第一節 北京愛隣館の設立経緯
- 第二節 北京愛隣館の運営組織
- 第三節 北京愛隣館の運営資金
- 第四節 北京愛隣館の事業実態
- 補論 羽仁もと子と自由学園北京生活学校

終章 主要参考文献一覧

- (付1) 清水安三略年譜
- (付2) 清水安三著作目録
- (付3) 崇貞学園略年表(一九二二—一九四六年)

一九三二年	四一歳	●同志社大学予科、英語師範部の講師をつとめる。
一九三三年	四二歳	●同志社大学講師を辞退、近江兄弟社北京駐在員となる。
一九三六年	四五歳	●美穂夫人病没(二月一九日)。
一九三七年	四六歳	●郁子と天津教会で結婚式。
一九三八年	四七歳	●北京を戦禍から守るため、日中両軍司令官にかけ合う。
一九三九年	四八歳	●総牧師として北京日本人教会設立。
一九四〇年	四九歳	●北京愛隣館の館長となり、郁子は現地委員長となる。
一九四六年	五五歳	●愛隣館落成式(五月二六日)。
		●日本へ引き揚げる(三月二五日)。
		●日本憲兵隊より三〇日間に及ぶ取り調べを受ける。
		●桜美林学園を創立(開園式五月五日)。

第二章 清水安三の半生と中国

清水の生涯を辿ってみると、二つの大きな転機があったことに気づく。その一つは幼少時代を中心に、儒教的な世界からキリスト教世界へと転身したこと。もう一つは青春時代、とくに同志社大学時代を中心に、中国軽視・西洋への傾倒から中国文化へ感謝・報恩の念を抱くようになったことである。本章は、この二大転機を述べることによって、清水の生い立ちおよび中国に捧げた半生を追うことを目的とする。

第一節 儒教的世界からキリスト教世界へ

清水は一八九一年六月一日、近江聖人中江藤樹(二六〇八—四八八)の郷里に近い滋賀県高島郡新儀村の豪農の家に生まれた。先祖のなかに中江藤樹の門弟に学んだ人もあるほど、儒教的雰囲気のある家庭で育てられた。「己の欲せざるところを、人に施すなかれ」とか、「小便の際」片手でやれ、そして片方の手では本を持って「おれ」といった儒教的言葉を毎日のように聞かされた。この影響を受けて後年清水は、北京郊外の崇貞学園では

阿部 洋

国立教育政策研究所名誉所員・福岡県立大学名誉教授・南京師範大学名誉教授

『朝陽門外』(一九三九年)と『支那新人と黎明運動』(一九四四年)——  
これらは、近代中国教育史や日中文化交流史の研究に従事する  
ものがいずれかの時点で必ず出会う名著である。

両書の著者清水安三は、大正期後半中国人伝道を目的とする日本  
人キリスト教宣教師第二号として中国に赴き、以後三〇年にわたり  
北京・朝陽門外の貧民街で貧しい中国人子女のために崇貞学園を設  
立、張伯苓や銭稻孫など多くの中国人教育家の協力を得て、働きつ  
つ学ぶ「工読主義」の教育を実践した。『朝陽門外』はその実践記録と  
もいべきもの。

彼はまた、五四運動を機とする中国社会の動乱のなかに自ら身を  
置き、暖かいまなざしを以てその社会的・文化的激動を鋭く観察し、  
底流する新しい動きとその意味を『北京周报』『基督教世界』などを  
通じて日本に向けて発信し続け、吉野作造をして「極めて公平な見  
識」と激賞させた。『支那新人と黎明運動』は、こうした中国観察の  
成果のひとつである。

新進気鋭の中国教育史研究者・李紅衛女史は、この二つの側面を  
もつ清水安三の生き様を統一的に把握し、日本外務省記録や北京檔  
案館所蔵の未公開文書などを縦横に駆使して、北京崇貞学園から天  
橋愛隣館へと至る清水の真摯な教育実践を、当時における日中兩國  
間の教育文化交流の展開過程のなかに位置づけ、その意義を解明し  
ようと試みた。従来、制度・政策レベルの研究が多かった戦前期日  
中教育文化交流史の分野に、民間人の活動を付加することにより、  
新生面を拓こうとした意欲的な研究といえる。

推薦します

### 日中文化交流史をとらえ直す

樽松かほる

桜美林大学教授

本書は、著者が二〇〇七年お茶の水女子大学に提出した学位請  
求論文に基づいている。

一九九六年十二月のある日、今は亡きお茶の水女子大学の小川剛  
氏から清水安三の研究をしている学生が行くからよろしくのご連  
絡をいただいたことで、著者との研究交流がはじまった。著者が研  
究に取り組みようになった動機はそれまで認識していたとは異な  
った中国に於ける日本人の存在を清水安三に見出したからと伺って  
いる。

清水安三は日本組合派教会から最初に中国に派遣された宣教師  
であったが、戦前、戦中崇貞学園、愛隣館での事業活動をした人  
物として知られている。これまで、彼の中国での活動を取り上げた  
研究は少なくない。しかし、いずれの研究においても彼の一面を知  
るに留まっている。この度の本書の刊行により、中国での清水安三  
の思想と活動の全体像が学術的な手法によって初めて明らかにされ  
たのである。ある時にはキリスト教的人道主義に堅く立ち、ある時  
には時局に操られ、国策に便乗するかの如くに見える個性的な清  
水安三の生き様と崇貞学園の歴史を日中兩國における豊富な資料  
に裏付けられ、手堅い考察によって検証されている。本書はこれま  
での「奴隸化教育」と一般に括られてきた近代日中文化交流史に新  
たな二石を投じている。加えて、本書を通じての清水安三から、ど  
のようにすれば、現代の国際交流・支援を通じて人類の悲願である  
世界平和に近づくことができるかを学ぶことができる。

既刊図書

湯川次義 著

### 近代日本の女性と大学教育 —教育機会開放をめぐる歴史—

戦前日本における女性への大学教育機会の開放をめぐる史的  
展開に着目し、その理念・制度構想・門戸開放の実態を考察  
し、性に基づく大学教育機会の差別がどのように克服された  
かを究明した書。

●A5判・上製・732頁  
●本体価格8,500円+税 ISBN:8350-2371-4

鳥居和代 著

### 青少年の逸脱をめぐる教育史 —「処罰」と「教育」の関係—

青少年への働きかけが備えていた実質を、一九二二年少年法  
の成立過程から、一九二〇〜三〇年代設立の校外教護、保導  
機関の取組み、総力戦体制下の勤労青少年輔導政策の展開を  
通じて考察する。

●A5判・上製・288頁  
●本体価格5,800円+税 ISBN:8350-5587-X

野中正孝 編著

### 東京外国語学校史 —外国語を学んだ人たち—

「東京外国語学校」(現・東京外国語大学)の知られざる実像、  
近代日本の国際化を担ったその出身者たちの忘れられた活動  
の軌跡を、残された関係資料を克明に調査し精細に明す大著。

●推薦 寺崎昌男  
●A5判・上製・1,600頁  
●本体価格6,800円+税 ISBN:978-4-8350-5767-5

六角恒廣 著

### 中国語関係書目(増補版)

明治以降の近代日本における中国語教育に使用された教科書  
を全て収録。旧版(一八六七〜一九四五)に続き、増補版では  
二〇〇〇年までを発行年月日の順に配列している。

●A5判・並製・181頁  
●本体価格2,000円+税 ISBN:8350-4394-4

那須 清 編

### 北京同学会の回想

北京同学会は、明治三六年支那語研究会として北京に開設、  
六回校名を変え、昭和二年廃校。この専門学校出身の中国  
語教師・研究者は多く、戦後の中国語教育に大きな足跡を残  
した。

●A5判・並製・300頁  
●本体価格2,800円+税 ISBN:8350-4401-0

那須 清 著

### 旧外地における中国語教育

本書は、旧「外地」(中国)における中国語教育の歴史を、教  
科書および制度等について検討し、また北京にあった無名の  
中国語学校である支那語研究室についても論述する。詳細な  
関連年表付き。

●A5判・並製・130頁  
●本体価格2,000円+税 ISBN:8350-4400-2

●表示価格はすべて税別。

不二出版

T113-0023  
東京都文京区回生1-2-12  
電話03-3812-4433  
FAX03-3812-4464  
振替001600-294084